

第七十回 帝國議會

# 絲價安定施設法案外一件委員會議錄(速記)第十回

付託議案(審査終了ノモノヲ除ク)  
漁船保險法案(政府提出)  
森林火災保險特別會計法案(政府提出)  
森林火災保險法案(政府提出)

## 會 議

昭和十二年三月十五日(月曜日)午前十時二  
十八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 紫安新九郎君

理事小山邦太郎君 理事飯田 助夫君

理事横川 重次君

野田文一郎君 百瀬 渡君

高木条太郎君 松尾 四郎君

小林 鑄君 登坂 良作君

東條 貞君 今給黎誠吾君

山崎 銀二君

三月十三日委員最上政三君、生田和平君及  
篠原義政君辭任ニ付キ其ノ補闕トシテ高木  
条太郎君、益谷秀次君及登坂良作君ヲ議長  
ニ於テ選定セリ  
同月十五日委員瀬川嘉助君辭任ニ付其ノ補  
闕トシテ東條貞君ヲ議長ニ於テ選定セリ  
出席政府委員左ノ如シ

農林次官 長瀬 貞一君

農林省山林局長 村上龍太郎君

農林省水產局長 原 辰二君

商工省保險局長 後藤 保清君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

漁船保險法案(政府提出)

森林火災保險特別會計法案(政府提出)

森林火災保險法案(政府提出)

森林火災保險法案(政府提出)

森林火災保險法案(政府提出)

○百瀬委員 私ハ森業政策上ヨリ見タル火  
災保險ノ經濟的價值並ニ防火對策ニ關シ  
テ、當局ニ少シク質問ヲ試ミタイト思ヒマ  
ス、森林火災保險ノ主ナル狙ヒ所ハ、一  
朝火災ニ遭遇シテ跡地ノ整理ヲ計畫スル場  
合ニ、即チ跡地ノ造林計畫、即チ再造林ヲ  
速ニ實施シテ、其復舊ヲ圖ルコトハ最モ必  
要ナルコトデアリマスルガ、之ニ伴フ資金  
關係ノ點ヨリ致シマシテ、頗ル困難ナ場合  
ガアリマスルノデ、有效適切ナ是ガ對策ト  
シテハ、森林火災保險ノ立法ニ俟ツ所ノモ  
ノガアリマスルガ、之ニ伴フ資金ノデアリマス  
ルカ、防火施設ト申シマシテモ、家屋等ノ  
ハ政府ハ如何ナル御考ヲ持ッテ居ラレマス  
ヲ感ズル者デアリマスガ、是ガ對策ニ付テ  
ハ政府ハ如何ナル御考ヲ持ッテ居ラレマス  
ルカ、防火施設ト申シマシテモ、家屋等ノ  
火防施設トハ異ナリマシテ、廣範圍ニ瓦ル  
林野ニ對スル施設ハ殆ド困難デアリマセウ  
ガ、茲ニ實例ヲ舉ゲテ見マスガ、長野縣ノ  
如キ山林ノ廣範圍ニ瓦ツテ居リマス所ハ、山  
村ノ多クハ製炭業ニ從事シテ居ル者ガ多イ  
ノデアリマシテ、殊ニ近年製炭業ガ益々盛ト  
ナリ、ソレト同時ニ近年山林ノ火災率ガ甚  
ダ多クナツテ居ルノデアリマスガ、其原因ハ  
注意カラ、發火ノ原因トナル向キガ決シテ  
少クナイトアリマスル、尤モ是等ニ對シ  
者デアリマス、林業者ガ僅カノ保險料ヲ拂  
込サヘ致シマスレバ、一朝不慮ノ火災ニ遭  
シテハ、森林防火ノ施設ノ必要ヲ痛感スル  
者ヲ獲得シテ、造林費ガ出來ルト云フ、唯

單ニ金ヲ目當ニスル自己ノ慾望ヲ達スルト  
云フ觀念ニノミ囚ハレテ、林業ノ公益的見  
地カラ之ヲ保護スルト云フ觀念ヲ薄クスル  
ヤウナコトガアリマシテハ、本法制定ノ折  
角ノ趣旨ニ反シマスルカラ、私ハ林野保護  
ノ觀念ヲ助長スル上カラ、防火施設ノ必要  
ヲ感ズル者デアリマスガ、是ガ對策ニ付テ  
ハ政府ハ如何ナル御考ヲ持ッテ居ラレマス  
ルカ、防火施設ト申シマシテモ、家屋等ノ  
火防施設トハ異ナリマシテ、廣範圍ニ瓦ル  
林野ニ對スル施設ハ殆ド困難デアリマセウ  
ガ、茲ニ實例ヲ舉ゲテ見マスガ、長野縣ノ  
如キ山林ノ廣範圍ニ瓦ツテ居リマス所ハ、山  
村ノ多クハ製炭業ニ從事シテ居ル者ガ多イ  
ノデアリマシテ、殊ニ近年製炭業ガ益々盛ト  
ナリ、ソレト同時ニ近年山林ノ火災率ガ甚  
ダ多クナツテ居ルノデアリマスガ、其原因ハ  
注意カラ、發火ノ原因トナル向キガ決シテ  
少クナイトアリマスル、尤モ是等ニ對シ  
者デアリマス、林業者ガ僅カノ保險料ヲ拂  
込サヘ致シマスレバ、一朝不慮ノ火災ニ遭  
シテハ、森林防火ノ施設ノ必要ヲ痛感スル  
者ヲ獲得シテ、造林費ガ出來ルト云フ、唯

アルヤウナ感ジガ致スノデアリマス、此點  
ニ對シマシテ林道ノ開設デアリマス、林道  
ノ開設ハ林材ノ價值ヲ向上シ、林業經營上  
極メテ緊要ナコトデアルコトハ勿論デアリ  
マスルガ、一面此林道ノ開設ガ火防上ニ資  
スル便宜ナ役割ヲ演ズルコトモ亦考ヘナケ  
レバナラナイコトデアリマス、併ナガラ此  
林道ノ開設ナドニ付キマシテハ、既ニ政府  
ニ於カレハ連年ノ年度割計畫デ、相當ノ  
助成費ヲ計上シテ、林業府縣ニ御交付ニ相  
成ジテ居リマスルガ、是トテモ廣範圍ニ瓦ル  
林業、即チ林業政策ノ見地カラ申シマスレ  
バ、洵ニ稀薄ノ感ジガ致スノデアリマス、  
林道ノ開設ヲ一層當局ハ獎勵スルト同時  
ニ、一面ニハ燒跡ノ造林計畫ニ付キマシテ、  
即チ再造林ニ對スル保險制度ノ制定ハ、是  
ハ擴大スペキデアリマスケレドモ、之ニ伴  
フ防火施設ニ對スル何等カノ御計畫ガアリ  
マスカ、御考ガアリマスカ、念ノ爲メ伺ッテ  
置キタイト思ヒマス

○村上政府委員 只今ノ御尋ハ洵ニ御尤ナ  
御尋ト存ジマスルノデ、ソレラノ方面ニ付  
キマシテモ色々考ヲ廻ラシテ居リマス、其

考ヘテ居ルコトノ一二ヲ申上ゲテ見タイト  
思ヒマス、御話ノヤウニ私共ハ保険ト兩立  
シテ行カナケレバナラヌコトハ、サウシテ  
又ソレ以上ニ大切ナコトハ、火ノ出ルノヲ  
防グコトガ大切ダト考ヘマス、保険ハ火ガ  
出タ場合ニ其跡地ガ荒レナイヤウニ造林ヲ  
スル、ソレカラ火ガ成ベク出ナイヤウニト  
云フコトヲ本體ニ考ヘテ居リマス、御話ノ  
ハ致シマスガ、斯様ナコトハ取締ダケデヤ  
ラウトシタ所デ、中々行クモノデハナイン  
デアリマス、要ハ如何ニシテ實行スルカト  
云フコトガ大切ナコト思ヒマス、御承知  
ノヤウニ一度火が出マシタ場合ニ消防ニ出  
ル道等ガ備ハツテ居リマセヌト、中々消防等  
モ困難デアリマスカラ、林道ノ普及發達ト  
云フコトハ、是ガ雷ニ材木ヲ出スト云フ關  
係ダケデナシニ、防火其他色々點ニ於テ  
百般ノ效果ガアルコトハ考ヘテ居リマスノ  
デ、林道ニ付テ明年度カラ或ル程度擴充致  
シタ施設ヲ致シマスガ、是モ多少役立ツコ  
トト思シテ居リマス、火災警防ニ直接致シマ  
スルヤリ方トシマシテハ、色々ゴザイマス  
ガ、第一ハ一般ノ人々ニ火ノ恐シイコト、  
又火ヲ出サナイヤウニ用心ヲスルコト、又  
火ガ出レバ山ガ荒レルト云フコトハ、唯單

ニ經濟問題デナシニ公益上非常ナ關係ノア  
ルコトヲ能ク諒解致サセマシテ、謂ハバ何  
ト申シマスカ、火災警防思想ヲ普及スルコ  
トガ大切ダト考ヘテ居リマス、數年來或ハ  
「ボスター」ヲ作リマストカ、或ハ火ノ用心  
燐寸ヲ作りマストカ致シマシテ、火災警防  
思想ノ普及ニ努メマスルシ、又ココ數年來  
神武天皇祭ヲ中心ニ致シマシテ、全國的ニ  
是ハ北海道カラ樺太マデ皆一緒ニナリマシ  
テ、愛林日ト云フノヲ致シテ居リマス、左  
様ナ機會ニ於テ宣傳ヲ致スナド致シマシ  
テ、社會ノ注意ノ喚起ニ努メテ居リマス、  
尙ほ實行ノ方法ト致シマシテハ、全國ニ普  
遍的ニハヤツテ居リマセヌガ、アツチコッチノ  
マシテ、ソレヲ一般ニ普及致サセタイト云  
フ考カラ致シマシテ、斯様ナコトヲ致シテ  
居リマス、大體火災ノ出マスルノハ時期ガ  
ゴザイマス、サウシテ空中ノ濕氣ノ關係ガ、  
火災ニ大變關係ヲ持チマス、地表ノ濕度、  
空中ノ濕度ト云フコトガ大變ニ火災ニ關係  
ヲ持チマス、空中ノ濕度ガ五〇%以下ニ下  
ガレバ、用心ヲシナケレバナラヌ警戒時期  
ダト吾々ハ考ヘテ居リマス、ソレカラ空中  
ノ濕度ガ三〇%ニ下ガレバ、火災ガ起キタ  
場合ニ、警防ガ非常ニ困難ダト吾々ハ思ツ

テ居リマス、要スルニ乾燥ノ程度如何ニ依ツ  
テ、餘程用心ヲシナケレバナラヌ時期ガゴ  
ザイマス、ソレデ空中ノ濕度ガ五〇%以下  
ニ下ガリマシタ時ニハ、小學校ニ賴ミマシ  
タリ、或ハ田舎デゴザイマスト官舍ナドニ  
三角形ノ火ノ用心ノ旗ヲ掲ゲサセマシテ、  
一般ノ人ニ火災ノ危険ナ時期ニ入ッテ居ル  
ト云フコトヲ知ラセルコトニ致シテ居リマ  
ス、三十度以下ニ下リマスト——是ハ滅多  
ニ三十度以下ニ下ルコトハアリマセヌガ、  
國有林ナドデハ炭ヲ燒クコトナドモ成ベク  
止メテ、全員非常警備配置ニ就クヤウニト  
云フ風ナコトナドヲ致シテ居リマス、此濕  
度ヲ計ル爲ニ、或ハ官舍デアルトカ、或ハ  
サウ云フ方面ニヨク理解ヲ持ツテ吳レル學  
校ナドニ、濕度計ヲ置キマシテ、計ツテ貫ツ  
テ一般ニ警戒ヲスル、又所ニ依リマシテハ  
サウ云フ危險期ニ入リマスト「ラヂオ」ヲ以  
テ危險ニ入ッテ居ルト云フコトヲ知ラセル、  
テ居リマス

**○百瀬委員** 其表面ハ豫算ニ現レテハ居リ  
マセヌデモ、他ノ費目ニ依テ之ヲ流用シテ  
居ル其約ソ最近ノ、即チ昨年度アタリニ御  
使ヒニナツタ費用ガ御分リニナリマスルナ  
ラバ、参考ニ承ツテ置キタイト思ヒマス  
**○村上政府委員** 御答ヘ申上ゲマス、此費  
用ハ計算致シマスルト洵ニ困難デアリマシ  
シ、且ツ其方面ニ努力ヲ致シテ居リマス

テ、例へバ宣傳ナリ、講演會ナリ、或ハサウエ云フコトヲ致ス際ノモ、或ハ木ヲ植エルコトト、ソレカラ火ノ用心ヲスルコト、色ノモノヲ一緒ニヤリマスモノデアリマスカラ、之ヲ分ケテ計算致シマスコトハ非常ニ困難デアリマス、一寸其經費ガ幾ラ位掛テ居リマスカ、唯旗ヲ幾ラ立テタカ、濕度計ヲドノ位置イタカト云フコトハ分ッテ居リマスガ、全體ノ經費ヲ幾ラ使ツタカハ、色々ノ仕事ヲ一緒ニヤリマスノデ、一寸計算ガ困難デアリマス（百瀬委員「大體デ宜シウゴザイマス」ト呼フ）恐ラク數万圓ヲ出ナイダラウト思ツテ居リマス、分ケテ御答ヘ申スコトハ甚ダ困難デゴザイマス

トガアリハシナイカト云フコトヲモ、惧レ  
ルモノデアリマスルカラ、幸ヒ當局ニ於カ  
レテハ、私ノ考ト所感ヲ一ニセラルルナラ  
バ、十分今後ノ施設ノ上ニ、御留意セラレ  
ンコトヲ要望致シマシテ、私ハ質問ヲ打切  
リマス

○紫安委員長 横川君

ル 參考資料ヲ 御願致シ タイノデアリマス、  
ソレハ山林ノ面積ト、而モ其中ノ自然林ト  
植林トノ内譯ノ面積、ソレカラ火災ニ罹リ  
マスル罹災面積、是モ木ノ種類ト、ソレカ  
ラ高齡林ト若齡林トヲ區分ケニシテ 數字ヲ  
御示シフ願ヒ タイノデアリマス、ソレカラ

御提案ニナリマシタ漁船保険法案、之ニ對シマシテハ長年當業者ガ要望致シテ居リマシタモノノ一端ガ實現サレタコトニナリマスノデ、非常ニ御當局ノ政策實施ノ熱意ニ敬意ヲ表スル次第アリマス、尙ほ此沿岸漁業ノ振興ニ關シマシテハ、幾多ノ施設ヲ民間ニ於テモ、又當局ニ於テモ研究工夫ヲナサシテ居ルコトト思フノデアリマス、斯様ナ方法ガ色々ト考究サレテ居リマスルケレドモ、最近ノ沿岸漁村ノ實際ヲ見マスルト云フト、最モ漁業ノ根本ヲ成ス所ノ水産資源ノ衰退涸渴ト云フコトニ頭ヲ悩マシテ居ルノデアリマス、此點ガ一つ農林當局ニ於キマシテ、思切ッテ御持合セノ政策ガアリマスナラバ、之ヲ實施シテ戴ク譯ニハ行クマイカ、此水產資源涵養増殖ノ問題ガ解決サレマスルナラバ、隨テ今日悲痛ナ聲デ叫バレテ居リマスル所ノ漁民ノ救濟、漁村ノ金融ノ圓滑、或ハ漁業家ニ對スル所ノ信用、其他一切ノ漁業對策ト云フモノノ助成方法ト云フモノガ、圓滑ニ參ルト思フノデアリマスルガ、如何ニモ今日ノ實際ヲ見マスルト云フト、沿岸漁村ノ荒廢ト云フモノハ、實ニ言語ニ絶シテ居ルト申シテモ宜シイト思ヒマス、是等ノ救濟方法ニ對シマシテハ幾多御苦心ノ存スル所デアリ、永年ノ習慣

ト云フヤウナモノガ、或ハ一朝一夕ニ其改革ヲ爲シ得ナイノカモ知リマセヌガ、若シ此際漁船保險法案ヲ御提案ニナルト同様ノ一つノ決意ヲ以チマシテ、其他ニ關スル所ノ政策、最モ其根幹ヲ成ス所ノ沿岸漁業ニ對スル資源ノ涵養維持、寧ロ涵養維持ト申シマスルヨリモ荒廢ヲセシメナイ、所謂繁殖ノ限度内ニ於ケル所ノ漁獲ト云フ風ナ、大體ノ方針ヲ農林當局ニ於テ、漁民ニ對シテ指導ナサル所ノ方法ヲ、何カ御考デアリマスルナラバ承リタイノデアリマス、何シロ漁師ノ漁獲對象物ニナリマスル魚族ガ存 在シナクナリマスレバ、何ヲ申シテモ根本的ニ失ハレテシマフノデアリマス、今日例ヲ申シマスルト、北海道ノ噴火灣ニ於ケルガ如キモノハ、實ニ悲慘ナル狀態ニナッテ居リマス、口ニハ水產資源ノ涵養繁殖ト云フコトヲ、官民共ニ誰人モ口ニ致サレマスケレドモ、其實際ヲ見マスルト云フト、例ヘバ機船底曳網ニ對スル所ノ善後處置ニ對スル方法、或ハ污水ノ流入シマスコトニ對スル防止方法ト云フヤウナモノニ付キマシテ、如何ニモ漁民ハ舉ゲテ悲痛ナ思フ致シテ居ルノデアリマス、是等ニ對シマシテ最近色々ト農林當局ノ御方針モアルヤウデアリマスルガ、具體的ニ一つ此處デ其方法、

及ビヤウ云フ順序デ實行シタイカト云フ所

ノ御方針ヲ承リタイト思ヒマス

リマシタ沿岸漁業振興ノ爲ノ、資源ノ維持

培養ニ關スル點デゴザイマスガ、洵ニ登坂  
サシノ只今御述ニナリマシタヤウナ實情趨  
勢デアリマシテ、御意見ノ如ク其資源ノ涸

申シマシテモ水産政策ノ根幹ト申シマス  
カ、最モ重キヲ置クベキ點ダト、私共ノ方デ  
モ存ジテ居ル次第デゴザイマス、ソレデ從  
來カラ政府ト致シマシテモ、サウ云フ點ニ  
鑑ミマシテ出來ルダケノ施設ハ講ジテ參フ  
テ居ツタノデゴザイマス、併ナガラ十分ニ其

施設ヲスルト云フ所マデハ、中々參ツテ居ナカツタコトモ亦事實デゴザイマス、ソレデ實承知ノ如ク前内閣ニ於キマシテ、色々重要國策ト云フモノヲ論議サレマシタ際ニ、水產當局ト致シマシテハ、其沿岸漁業ノ振興ト云フ問題ヲ、一ツ水產ニ關スル國策トシテ扱ツテ貴ヒタイト云フ考ヲ以チマシテ、具體的ニハソレヲ豫算ノ上ニ現ハシテ參ルコトニ努力ヲ致シタノデアリマス、其考へ方シタヤウニ、積極ノ方面ト消極ノ方面ト、ハ大體ニ於テ登場サンノ只今御述ニナリマ

兩方面ニ亘ツテ考ヘナケレバナラヌ、斯様ニ

考へマシテ、先づ積極ノ方面デハ所謂沿岸資源ノ増殖ヲ圖ル、具體的ニ申上ダマスナ

ラバ、水産増殖ノ爲ニ貝類デアリマストカ、

ニモ鑑ミマシテ、所謂指導者ト云フモノヲ漁業地方ニ置イテ、手ヲ取ツテ漁業者ヲ指導スルト云フコトモ、今日ノ漁村ノ實情カラ見マシテ最モ大切ナ必要ナコトデアル、

ノ御趣旨ハ私共ト全ク同一デゴザイマシ  
テ、積極消極兩方面カラ將來ニ於キマシテ  
モ考ヘテ行カナケレバナラヌ、斯様ニ考ヘ  
テ居リマス

ノ造成面ヲ作ル施設ヲ試ミル、或ハ種苗ノ放養ノ施設ヲ企テル、ソレカラ種苗ヲ採集スル施設ヲ講ジマス、或ハ苗區ノ設置ヲ圖リマス、サウ云フ施設ヲ講ジマシテ、所謂種ヲ餘所カラ持ツテ來、又種ヲ保護シ、サウシテ魚貝、海藻類ノ増殖ヲ圖ル、斯ウ云フ風ナ施設ヲ講ズル、一面ニ於キマシテ消極的ニハ、御承知ノ通リニ機船底曳網ノ如キ海ノ底カラ浚ヒマシテ、魚貝類ノ產卵場所ヲ壞シテシマフ、一網打盡ニ稚魚マデモ抄ヒ上ゲテシマフト云フ風ナ漁業ハ、相當是ハ制限ヲシテ產卵場モ保護シ、又稚魚ヲ濫獲スルト云フコトノナイヤウニ、所謂漁場ヲ消極的ニ保護スルト云フコトヲ考ヘナケレバナラナイ、又大體ニ於キマシテ漁業者ト云フモノハ、マダ／＼知識ノ程度ガ幼稚デアリマシテ、増殖ナリ漁場ノ保護ナリト云フモノニ付テ、親切ニ指導ヲシテヤラナケレバ、中々漁業者自身ニ任セテ、施設ノ趣旨ヲ唯話シテ聞カセルト云フコトダケデハ實行ガ難カシイノニアリマス、サウ云フ點

ニモ鑑ミマシテ、所謂指導者ト云フモノヲ漁業地方ニ置イテ、手ヲ取ッテ漁業者ヲ指導スルト云フコトモ、今日ノ漁村ノ實情カラ見マシテ最モ大切ナ必要ナコトデアル、斯様ニ考ヘマシテ、大體今申上ゲマシタヤウナ積極的ノ増殖ノ施設ノ獎勵、底曳網ノ整理ト云フガ如キ消極的ノ保護ノ施設、又消極積極ニ瓦ル諸施設ノ指導者ヲ、地方ニ配置スルト云フ風ナ内容ヲ盛リマシテ、昭和十二年度ノ豫算ニ於キマシテハ、約四十二万圓バカリノ經費ガ計上サレタノデアリマス、水產當局ト致シマシテ、是ダケノ經費デ決シテ十分トハ思ヒマセヌガ、又從來ノ施設ニ比ベマスト、資源ノ保護培養ノ爲ニ、兎ニ角四十万圓モ經費ガ豫算ニ計上サレルト云フコトハ、オ恥カシイ話デアリマスガ、非常ニ一大進歩ヲシタ云フヤウナ實情デゴザイマシテ、從來ノ施設ナリ經費ニ比ベマスト、非常ニ豫算モ取レ、稍々施設ガ徹底的ニ行ハレルト云フ風ナコトニハナリマスケレドモ、現狀竝ニ將來ノ點ニ鑑ミ鑑分ダト云フ風ニ考ヘテ居リマス、將來水產當局ト致シマシテハ、モット／＼此方面ニ施設ヲ擴充スルコトニ努力シテ參ラナケレバナラヌ、斯様ニ考ヘテ居リマス、登坂サン

ノ御趣旨ハ私共ト全ク同一デゴザイマシ  
テ、積極消極兩方面カラ將來ニ於キマシテ  
モ考ヘテ行カナケレバナラヌ、斯様ニ考ヘ  
テ居リマス

○登坂委員 能ク御趣意ノ程ハ分ッテ居リ  
マスガ、私ノ熱望ニ堪ヘナイノハ、即チ最  
近ヨク庶政一新トカ、或ハ國策ノ樹立トカ  
國民ノ生活安定トカ云フコトヲ非常ニ大キ  
ナ文字デ書立テラレ、又叫バレテ居ルノデ  
アリマス、併ナガラ唯空ニサウ云フコトノ  
ミ申サレテモ、實際ニ例ヘバ今ノ漁民ノ如  
キモノニ於キマシテハ、ドウモ上滑リヲ致  
シテ居ル感ガアルノデアリマス、幸ニ斯様  
ナ時勢ニナッテ參ッタノデアリマスガ故ニ、私  
ハ水產當局ノ如キハ最モ此點ニ力ヲ入レテ  
戴キタイト思フノデアリマス、即チロヲ聞  
ケバ農漁山村ト申サレマシテ、常ニ漁村ト云  
云フモノニ重キヲ置カレテ居ル、又申スマ  
デモナク我國ノ沿岸線ハ實ニ長イノデアリ  
マスガ、若シモ此魚族ト云フモノガ去ッテ  
シマヒマシタナラバ、何ト申シマスカ、沿  
岸獨り長クシテ、漁民ハ歎息ヲスト云フ  
形ニナルカト思フノデアリマス、即チ一例  
ヲ見マシテモ、昔北海道ニアノ如ク居リマ  
シタ鯨ハ今日殆ド居ラナイ、段々逐年減少  
ヲ致シテ參ルノデアリマシテ、水產當局ニ

於キマシテモ非常ナ御研究ニハナッテ居リマセウガ、斯様ナ一つノ鯨ト云フヤウナ魚族ニ對スル研究ヲ見マシテモ、一體鯨ト云フモノガ皆滅ビテシマッタノカ、或ハ他ニ行ッテシマッタノカ、水產當局ニ於キマシテ實際ニ之ニ對スル所ノ研究ガアリマスルナラバ、私共民間ニ在ル者ハ参考ニ聞カシテ戴キタイト思フノデアリマス、今日色々ノ魚族ガ豊富ニ居ルト申シマシテモ、廳テ濫獲ヲ續ケテ參リマシタナラバ、此運命ニ總テガ到達スルト思フノデアリマス、其時ニ至テ口ニ或ハ掛聲ヲ掛け、如何ニ保險法ト云フヤウナモノヲヤリマシテモ、私ハ漁村ノ更生策ト云フモノハ至難ト考ヘテ居ルノデアリマス、ドウカ積極ニ致シマシテモ、消極的ニ致シマシテモ、其方法ニ對シテ水產當局ノ一段ノ腹構ヘヲ拵ヘテ戴キタイト思フノデアリマス、私共へ最近ドン～参リマス所ノ電報ヲ見マスルト、殆ド漁村カラ自暴的ノ電報ガ澤山參ル、之ヲ唯今ノ御話ノヤウニ段々トヤツテ行ク積リデアルト云フヤウナ一つノ御計畫ハ聞カサレマシテモ、漁民ガ、ソレニ依ヅテ満足シ得ルカ、請願書等ヲ御覽ニナリマシテモ、十分御承知デアリマセウト思ヒマスルガ、皆是レ各ノ生活問題ニ關係ガアリマスル爲ニ、例ヘバ本當

ノ水產業者全面ノ資源維持ノ問題ニ致シマシテモ容易ニ足並ガ捕ハナイ、ソレハ無理戴キタイト思ヒマスルガ、例ヘバ此機船底曳網ノ如キ一例ヲ採リマシテモ、是ハ曾テハ實際ニ於テ御獎勵ニナリ、或ハ地方廳ニ於テモ獎勵致サレタノデアリマスルガ、併シ今日殆ド是ハ水族資源ノ潰滅ヲ來ス憂ヒガアルト云フコトニ、定論ガ相成ツテ居リマシテ、水產當局ニ於キマシテモ、是ガ制限整理ヲ爲サル御意圖デアルコトハ伺ッテ、私共モ贊意ヲ表シテ居リマス、併ナガラ最近ニ於キマシテハ、漸次其空氣モ弛緩ヲ致シテ來テ居ルヤウニ、漁村等モ心配ヲ致シテ居リマス、實際其機船底曳網ニ依ツテ害ヲ被ツテ居ル所ノ沿岸漁民ノ聲ヲ聞キマスルト、何ト申シマシテ宜イカ、實ニ涙ナキ能ハズト云フヤウナ感ヲ致ス、此問題ノ如キハ餘程水產當局ニ於キマシテ、眞ニ此水產政策ト云フヤウナモノモ、十分ニ水產當局ニ於キマシテ、何等カノ方法ヲ以テ御工夫ヲ戴キマシテ、是等ノ業者モ立ツヤウニ、而シテ又一面ニ此沿岸漁村ノ眞ニ、實ニ危險ナル時機ニアルノデアリマスルガ故ニ、之ヲ茲ニ防グ、サウシテ最モ優秀ナル

此水族ノ資源ト云フモノヲ自ラ荒廢スル、斯ノ如キハ冷靜ニ常識ヲ以テシマシタナラバ、當然分ルコトデアリマスルガ、最近殊ニ網ノ如キ一例ヲ採リマシテモ、是ハ曾テハ農林當局カラ、廳テ五年若クハ七年ノ間ニ水產當局ニ於テ御獎勵ニナリ、或ハ地方廳ニ於テモ獎勵致サレタノデアリマスルガ、レテ以來、機船底曳網業者ト云フモノハ此網ノ如キ一例ヲ採リマシテモ、是ハ曾テハ農林當局ニ於キマシテ、御共鳴ヲ得マスルナラバ、一段トモウ少シ「スピード」ニヤッテ戴ク譯ニハ行クマイカ、何ヲ申スニモ此資源ノ維持ガ失ハレマシタナラバ、一切空ニ歸是ハドウシテモ日本ノ沿岸漁業ヲ振興シ、ナツテ參ッテ居ルノデアリマス、私ハ思フニ、漁村ヲ救濟スルト云フ大キナ見地カラ參リマシタナラバ、此機船底曳網ト云フモノノ制限整理ヲ爲サル御意圖デアルコトハ伺ッテ、私共モ贊意ヲ表シテ居リマス、併ナガラ最近ニ於キマシテハ、漸次其空氣モ弛緩ヲ致シテ來テ居ルヤウニ、漁村等モ心配ヲ致シテ居リマス、實際其機船底曳網ニ依ツテ害ヲ被ツテ居ル所ノ沿岸漁民ノ聲ヲ聞キマスルト、何ト申シマシテ宜イカ、實ニ涙ナキ能ハズト云フヤウナモノモ、十分ニ水產當局ニ於キマシテ、何等カノ方法ヲ以テ御工夫ヲ戴キマシテ、是等ノ業者モ立ツヤウニ、而シテ又一面ニ此沿岸漁村ノ眞ニ、實ニ危險ナル時機ニアルノデアリマスルガ故ニ、之ヲ茲ニ防グ、サウシテ最モ優秀ナル

此水族ノ資源ト云フモノヲ自ラ荒廢スル、斯ノ如キハ冷靜ニ常識ヲ以テシマシタナラバ、當然分ルコトデアリマスルガ、最近殊ニ網ノ如キ一例ヲ採リマシテモ、是ハ曾テハ農林當局ニ於キマシテ、御共鳴ヲ得マスルナラバ、一段トモウ少シ「スピード」ニヤッテ戴ク譯ニハ行クマイカ、何ヲ申スニモ此資源ノ維持ガ失ハレマシタナラバ、一切空ニ歸是ハドウシテモ日本ノ沿岸漁業ヲ振興シ、ナツテ參ッテ居ルノデアリマス、私ハ思フニ、漁村ヲ救濟スルト云フ大キナ見地カラ參リマシタナラバ、此機船底曳網ト云フモノノ制限整理ヲ爲サル御意圖デアルコトハ伺ッテ、私共モ贊意ヲ表シテ居リマス、併ナガラ最近ニ於キマシテハ、漸次其空氣モ弛緩ヲ致シテ來テ居ルヤウニ、漁村等モ心配ヲ致シテ居リマス、實際其機船底曳網ニ依ツテ害ヲ被ツテ居ル所ノ沿岸漁民ノ聲ヲ聞キマスルト、何ト申シマシテ宜イカ、實ニ涙ナキ能ハズト云フヤウナモノモ、十分ニ水產當局ニ於キマシテ、何等カノ方法ヲ以テ御工夫ヲ戴キマシテ、是等ノ業者モ立ツヤウニ、而シテ又一面ニ此沿岸漁村ノ眞ニ、實ニ危險ナル時機ニアルノデアリマスルガ故ニ、之ヲ茲ニ防グ、サウシテ最モ優秀ナル

此水族ノ資源ト云フモノヲ自ラ荒廢スル、斯ノ如キハ冷靜ニ常識ヲ以テシマシタナラバ、當然分ルコトデアリマスルガ、最近殊ニ網ノ如キ一例ヲ採リマシテモ、是ハ曾テハ農林當局ニ於キマシテ、御共鳴ヲ得マスルナラバ、一段トモウ少シ「スピード」ニヤッテ戴ク譯ニハ行クマイカ、何ヲ申スニモ此資源ノ維持ガ失ハレマシタナラバ、一切空ニ歸是ハドウシテモ日本ノ沿岸漁業ヲ振興シ、ナツテ參ッテ居ルノデアリマス、私ハ思フニ、漁村ヲ救濟スルト云フ大キナ見地カラ參リマシタナラバ、此機船底曳網ト云フモノノ制限整理ヲ爲サル御意圖デアルコトハ伺ッテ、私共モ贊意ヲ表シテ居リマス、併ナガラ最近ニ於キマシテハ、漸次其空氣モ弛緩ヲ致シテ來テ居ルヤウニ、漁村等モ心配ヲ致シテ居リマス、實際其機船底曳網ニ依ツテ害ヲ被ツテ居ル所ノ沿岸漁民ノ聲ヲ聞キマスルト、何ト申シマシテ宜イカ、實ニ涙ナキ能ハズト云フヤウナモノモ、十分ニ水產當局ニ於キマシテ、何等カノ方法ヲ以テ御工夫ヲ戴キマシテ、是等ノ業者モ立ツヤウニ、而シテ又一面ニ此沿岸漁村ノ眞ニ、實ニ危險ナル時機ニアルノデアリマスルガ故ニ、之ヲ茲ニ防グ、サウシテ最モ優秀ナル

程茲ニ水產試驗ノ一ツノ方法ヲ講ジタラ、  
斯様ナ效果ガアツタ云フコトガ伴ヒマス  
モ快ク支持應援ヲスルノデハアルマイカ、  
ソコデ例ヘバ時期的ニ何年間此處ノ場所ハ  
禁漁ニスルトカ、或ハ區域的ニ此處ヲ絕對  
ニ禁漁ニスルトカ、此問題モ或ハ日本全國  
一樣ニ見ルコトハ困難デアルカモ知レマセ  
ヌ、所ニ依リマシテ色々々ノ御調査ニナツテ  
居ルカモ知レマセヌガ、思切ヅテ一ツ此機  
船底曳網ノ害ノ多イ所、之ヲ除イタナラバ  
沿岸漁村ト云フモノガ、纏テハ振興シテ來  
ル曙光ガ見エルト云フ御調査ノ點ニ對シマ  
シテ、具體的ニ年限ヲ切ツテ一ツヤンテ見ル、  
サウ云フヤウナ御方策ノ持合セハナイモノ  
カ、私カラ亞米利加ヤ外國ノ例ヲ申上ゲル  
ノハ遠慮致シマスルガ、既ニ亞米利加等ニ  
於テモ、思ヒ切ツタ政策ヲヤッテ、今日水產  
資源ト云フモノノ維持ヲ致シテ居ル、日本  
ハ世界第一ノ水產國ト稱サレテ居ツテ、若モ  
ト思フノデアリマス、御考ハ十二分ニ私共  
モ拜承致シテ居リマスガ、何カ更ニ之ヲ實  
際的ニ何處カデ效果的ニ指導シテ戴ク方法

ノ御持合ガアリマセヌカ、北海道ノ一例ヲ申シマスト、噴火灣ノ如キハ實ニ一つノ適テ居ル、思ヒ餘ツテノ言葉デアリマス、其方面ノ機船底曳網ノ船ニ對シマシテ、海ノ「ギャング」ヲドウカ整理シテ欲シイト云フヤウナ感ジヲ持ツテ居ル、是ハ既ニ權利ヲ持ツテ居ラテ、而モ最初ハ水產當局カラ獎勵ヲ受ケテヤリマシタ仕事ガ、今日沿岸漁村ノ漁民カラ、海ノ「ギャング」ト云フヤウナ一ツノ稱號ヲ受ケルヤウナ狀態ニ相成リマスコトヲ、コ又數年間放置ナサルト云フコトニナリマスト、實ニ由々シキ事柄ニ相成リハシナイカト、實ハ私共心配ヲ致シテ居ルノデアリマス、サウシテ其機船底曳ニ乘ツテ居ル者ハ、已ムヲ得ズ沿岸漁民モ仕事ガナイ爲ニソレニ乗ツテ居ル、サウシテソレガ本職デアリマスガ故ニ、皆水子ト云フヤウナモノヲスッカリ海ノ底カラ浚ツテシマフ爲ニ、其跡へ延繩ヲヤツテ見マスト、海底ハ殆ド海軍ニ申シテ居リマス、斯様ニドチラカル見マガ掃海ヲシタヤウニナツタ云フノデ、乘ツテ居ツタ漁民モ、ドウシテモ獲レナイ譯ダト言ツテ、長大息ヲシテ居ルト云フコトヲ當シテモ、水產全體ノ立前カラ見マシタナラ

漁村ヲ更生セシメ、漁民ヲ救濟ナサル趣意  
カト思フノデアリマス、又同時ニ鑛山等力  
部沿岸ニ靜狩ト云フ處ガアリマスガ、此處  
ニハ當局ノ指導ニ依リマシテ、相當ノ金ヲ  
掛ケテ魚礁ヲ入レタノデアリマスガ、毫モ  
其效果ガナイ、或ハ又他カラ一ツノ水族ヲ  
持ツテ來テ、其處ニ扶植ヲ圖ツタケレドモ、數  
年ナラズシテ皆居ナクナツテシマッタト云フ  
譯デアリマシテ、山ト海トノ關係等モ等閑  
ニスベカラザル關聯ニナツテ居リマス、是等  
ニ對シマシテ本當ニ其事自體ニ付テノ御指  
導ヲ願フコトガ適切デハナイカ、唯抽象的  
ニ斯ウ云ウ風ニヤレ、アア云フ風ニヤレト  
云フコトヲ言ツテモ、毎日ノ業務ニ追ハレテ  
居ル漁民デアリマスガ故ニ本當ニ頭ニ來ナ  
イ、之ヲ假リニ此様ニ四五年辛抱シタナレ  
バ、非常ニ將來ノ水產ノ繁榮ヲ來シタト云  
フヤウナコトガ、日本全國ノ中ノ何處カニ  
三箇所デモアリマシタナラバ、非常ナ刺戟  
ニナルカト思フノデアリマス、又サウ云フ  
コトガアルカモ知レマセヌガ、アリマシタ  
體的ナ御考ヲ御聞カセ戴クナラバ仕合セト

○原政府委員 登坂君ノ縷々御述べニナリ  
マシタ底曳網ノ弊害ノ方面又水質ノ汚濁防  
止ノ點、是ガ資源ノ培養ノ上カラ最モ憂フ  
ベキコトデアリ、又隨テ早ク徹底的ニ解決  
ノ方法ヲ圖ルト云フコトノ必要ナコト等ハ  
モウ御述べニナリマシタ通りニ存ジテ居ル  
ノデアリマス、ソレデアリマスカラ先程申  
上ゲマシタヤウニ、底曳ノ整理ノ如キモ  
ノモ當局ト致シマシテハ、一日モ速ク沿岸  
ノ漁業者ト衝突ヲスルヤウナ點ヲ出來ル  
ダケ緩和シ、漁場ノ生産力ヲ一日モ速ク回  
復スルヤウニシテ行キタイト云フ趣旨デ、  
色々考へテ居ルノデアリマス、唯登坂サシ  
モ一寸御話ノアリマシタヤウニ、一面底曳  
業者ノ側カラ見ルト、過去ニ於テ假ニ積  
極的ニ政府トシテ獎勵ハシナカツタニ致シ  
マシテモ、兎ニ角正當ニ許可ヲ受ケテヤッテ  
來テ居ル商賣ヲ、直チニ止メナケレバナラ  
ヌト云フコトニナリマシテハ、又其處ニ  
種々困難ナ事情モアルコトハ免レナイノデ  
ゴザイマスカラ、成ベク轉業資金ノ如キモ  
ノヲ出シテヤリマシテ、失業スルト云フヤ  
ウナコトハ避ケテ、調和ヲ執ツタヤリ方ニ  
依ツテ解決ヲシテ行カナケレバナラヌ、斯様  
ニ考ヘマスノデ、ソレ等ノ點ニ付テ色々考

ヘテ居ルノデアリマスガ、只今御話ノアッタ  
何處カ一定ノ地域ヲ決メテ、其處デ模範的  
ニ底曳ヲ止メサセテ、止メレバ斯ノ如ク漁  
場ハ回復シ、生産力ガ増スト云フコトヲ、  
目ノアタリ見サセルヤウナコトヲヤッテハ  
ドウカト云フ御考モ、大變適切ナ御考ト思  
ヒマスノデ、將來此底曳整理ノ具體方針ヲ  
決メテ參ル際ニ、十分考慮シテ見タイト思  
ヒマス、ソレカラ水質汚濁ノ點デゴザイマ  
スガ、是モ實ハ水質汚濁防止ノ相談所ト云  
フ風ナモノガ、別ニ只今ノ所アル譯デハゴ  
ザイマセヌガ、農林省ニ専任ノ職員ヲ置イ  
テ、地方カラノ御要求ニ依テ、出來得ル限  
リ實際ニ就イテ調査ヲシ、斯ウ云フ水質デ  
アレバ、斯ウ云フ風ニ防止ノ施設ヲ講ジタ  
ラ宜カラウト云フ風ナコトヲ、實ハ指導シ  
テ居ルノデアリマスガ、唯現在ノ所サウ云  
フ専任ノ職員ノ數ガ非常ニ少クテ、地方ノ  
御要求ノアル際ニ、直チニソレニ應ジテ、適  
切ナ御指導ヲスルト云フコトニハ十分デナ  
イト考ヘマスノデ、將來サウ云フ點ニ付テ  
モ十分考ヘテ參リタイト存ジテ居リマス

○東條委員 今ノ機船底曳ノ整理ノコトニ  
付テハ、豫算總會、分科會等デ大臣及ビ次官  
カラノ御答辯ガアリマシテ、大體ノ方針ハ  
承知致シテ居ルノデアリマスガ、私共此沿  
岸漁業ト底曳網トノ摩擦ニ付テハ、適當ナ  
解決ヲ付ケナケレバナラスト考ヘテ居リマ  
ス、所ガドノ程度ノ摩擦ヲ生ズルカト云フ  
コトニ付テノ、ハッキリシタ認識ガ得ラレナ  
ドウカト云フ御考モ、大變適切ナ御考ト思  
ヒマスノデ、將來此底曳整理ノ具體方針ヲ  
決メテ參ル際ニ、十分考慮シテ見タイト思  
ヒマス、ソレカラ水質汚濁ノ點デゴザイマ  
スガ、是モ實ハ水質汚濁防止ノ相談所ト云  
フ風ナモノガ、別ニ只今ノ所アル譯デハゴ  
ザイマセヌガ、農林省ニ専任ノ職員ヲ置イ  
テ、地方カラノ御要求ニ依テ、出來得ル限  
リ實際ニ就イテ調査ヲシ、斯ウ云フ水質デ  
アレバ、斯ウ云フ風ニ防止ノ施設ヲ講ジタ  
ラ宜カラウト云フ風ナコトヲ、實ハ指導シ  
テ居ルノデアリマスガ、唯現在ノ所サウ云  
フ専任ノ職員ノ數ガ非常ニ少クテ、地方ノ  
御要求ノアル際ニ、直チニソレニ應ジテ、適  
切ナ御指導ヲスルト云フコトニハ十分デナ  
イト考ヘマスノデ、將來サウ云フ點ニ付テ  
モ十分考ヘテ參リタイト存ジテ居リマス

○東條委員 今ノ機船底曳ノ整理ノコトニ  
付テハ、豫算總會、分科會等デ大臣及ビ次官  
カラノ御答辯ガアリマシテ、大體ノ方針ハ  
承知致シテ居ルノデアリマスガ、私共此沿  
岸漁業ト底曳網トノ摩擦ニ付テハ、適當ナ  
解決ヲ付ケナケレバナラスト考ヘテ居リマ  
ス、所ガドノ程度ノ摩擦ヲ生ズルカト云フ  
コトニ付テノ、ハッキリシタ認識ガ得ラレナ  
ドウカト云フ御考モ、大變適切ナ御考ト思  
ヒマスノデ、將來此底曳整理ノ具體方針ヲ  
決メテ參ル際ニ、十分考慮シテ見タイト思  
ヒマス、ソレカラ水質汚濁ノ點デゴザイマ  
スガ、是モ實ハ水質汚濁防止ノ相談所ト云  
フ風ナモノガ、別ニ只今ノ所アル譯デハゴ  
ザイマセヌガ、農林省ニ専任ノ職員ヲ置イ  
テ、地方カラノ御要求ニ依テ、出來得ル限  
リ實際ニ就イテ調査ヲシ、斯ウ云フ水質デ  
アレバ、斯ウ云フ風ニ防止ノ施設ヲ講ジタ  
ラ宜カラウト云フ風ナコトヲ、實ハ指導シ  
テ居ルノデアリマスガ、唯現在ノ所サウ云  
フ専任ノ職員ノ數ガ非常ニ少クテ、地方ノ  
御要求ノアル際ニ、直チニソレニ應ジテ、適  
切ナ御指導ヲスルト云フコトニハ十分デナ  
イト考ヘマスノデ、將來サウ云フ點ニ付テ  
モ十分考ヘテ參リタイト存ジテ居リマス

○原政府委員 東條サンノ只今御要求ノ北  
海道方面ニ於ケル……

○原政府委員 北海道ダケデナク、全國的ノ  
意味デスヨ、資料ハ……

○原政府委員 御話ノヤウニ、是ハ非常ニ  
精密ナ資料ハ中々困難デゴザイマス、デア  
リマスガ、私共ノ方デ大體方針ヲ立テル際  
ニハ、底曳デハ現在ドウ云フ種類ノ魚ヲ獲ツ

テ居ルカ、又沿岸漁業者トシテドウ云フヤ  
ウナモノヲ獲テ居ルカ、又獲ルベキ魚類ハ  
ドウ云フモノデアルカト云フ風ナコトヲ、  
イマスカラ、其大體ノ資料ヲ御目ニ掛ケル  
コトニ致シタイト思ヒマス、ソレカラ無許  
可ノ底曳ノ數デゴザイマス、是ハ御話ノヤ  
ウニ、到底正確ナ船數ト云フモノハ分リマ  
セヌガ、分科會デモ申シタヤウニ、唯大體  
ノ見當ノ數字デゴザイマスガ、其地方ニ非  
常ニ多イト云フ話ハ度々聞イテ居リマスノ  
ハ、六千艘カ七千艘位ハアルノデハナカラ  
ウカ——大體ソレ位ハドウモ居ルラシク思  
ハレルノデアリマス、但シソレガ所謂嚴格  
ナ意味ニ於テ底曳バカリデアルカドウカト  
方法ガ果シテ立ツカ立タヌカト云フ點デゴ  
ザイマスガ、是ハ私共ハ取締ノ方法ヲモウ  
少シ強化シテ參レバ、取締リ得ルモノト考  
ヘテ居リマス、モウ少シ具體的ニ申上ゲレ  
バ、現在ノ所ハ許可ヲ受ケタモノガ、許可ヲ  
受ケタ條件ヲ違反シタ場合、或ハ許可ヲ受  
クベカリシモノガ、受ケナイデヤツト云フ  
風ナ場合ニ付テノ取締ガ、大體ニ於キマン  
テハ許可ヲ受ケタモノガ、例ヘバ禁止區域

ヲ侵シタトカ、或ハ禁止期間ヲ守ラナカッ  
タト云フヤウナ場合ニハ、ソレハ停船處分  
ニアリマストカ、可ナリ制裁ノ途ガ詳細ニ  
備テ居リマスガ、自由漁業デ是ガ許可ヲ受  
付テノ對策問題ニ引ッ掛ルヤウナ場合ニハ、  
稍其制裁ノ規定ガ漏レテ居ルヤウニ、私ハ  
一寸感ジテ居リマスノデ、サウ云フ點ヲコ  
ソ細カニ規定ラシテ參レバ、相當此取締ノ  
方法ハ立ツモノト、斯様ニ考ヘテ居リマス、  
デアリマスガ、何ト申シマシテモ是ハ現在  
ノ數ガ餘リ多クアリマセヌデ、地方ノ取締  
底曳ダケノ取締専門ノ所謂監視船、是ナド  
ノ船ト協力シテヤツテ居ル譯デアリマスケレ  
ドモ、是トテモ、地方ノ取締船モ十八隻デ  
サウ言ツタ點ニモ、モウ少シ力ヲ加ヘテ參ラ  
ナケレバイケナイト思ツテ居リマス

○紫安委員長 高木君

ノ趣旨ニハ贊意ヲ表スル者デアリマス、併  
シ此機會ニ於テ、政府ノ水產政策ニ關スル  
御抱負ヲ承リ、併セテ此法案ニ對スル所ノ  
質疑ヲ二三試ミタイト存ジマス、本員ハ此  
際特ニ政府當局ノ考慮ヲ促シタイトコトハ、  
海難ノ防止ト救濟ニ關スルコトデアリマ  
ス、只今議題トナシテ居リマス漁船保險法  
ノ如キハ、確ニ有力ナル施設デハアリマス  
ルケレドモ、是ダケデハ決シテ十分デナイ  
ト本員ハ考ヘルノデアリマス、例ヘバ漁港  
又ハ避難港ノ設備ヲ、十分ニ普及スルコト  
ハ其一ツデアリマス、漁船乗組員ノ養成ニ  
付テ、徹底的ニ其施設ヲ爲スコトモ其一つ  
デアリマス、更ニ尙ホ漁業從事者ニ關スル  
人道上カラ見マシテモ、私ハ默視スルニ忍  
耐害シテ居ル事實ナドハ、魚族減少ノ主ナ  
ル原因ノ一ツデアリマス、ソレガ爲ニ各地  
ニ種々ノ紛擾ヲ生ジツツアルコトハ、御當  
局ニ於テモ御承知ノコトト思フノデアリマ  
ス、是等ニ對シテ之ヲ放任シテ置カズ、何  
トカ積極的ノ對策ヲ講ジテ欲シイト思フノ  
デアリマスガ、ソレニ對シテドウ云フ御考  
ヲ持ツテ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイノデ  
アリマス、尙ホ更ニ沿岸漁業ノ不況ニ伴ヒ  
マシテ、漁業相互間ニ種々ナル紛議力益、  
重大化シツツアルコトデアリマスガ、今議  
會ニ於キマシテモ、只今登坂君ノ述べラレ

リマス

第二ハ沿岸漁業ノ振興策デアリマスル  
ガ、勿論沿岸漁業ハ我國漁業ノ大宗デアリ  
マシテ、最モ重要デアリマスルガ、近年漁  
村經濟ノ窮乏ガ深刻ニナッテ來マシタコト  
ハ、勿論種々ノ原因ガアルコトハ存ジマ  
スルガ、第一ハ先程カラ登坂君ノ言ハレタ  
ガ如ク、魚族ノ減少デアリマス、即チ漁場  
ガ荒廢シツツアルコトデアリマス、其漁場  
ノ荒廢ハ濫獲ノ結果ニモ因ルデアリマセウ  
ガ、必シモソレノミデハナイノデアリマシ  
テ、例ヘバ工業、礦山、電氣事業等ノ發達  
ニ伴ヒマシテ、沿岸ト言ハズ、河川湖沼ノ  
水質ガ汚毒致シテ、水產生物ノ產卵棲息ヲ  
妨害シテ居ル事實ナドハ、魚族減少ノ主ナ  
ル原因ノ一ツデアリマス、ソレガ爲ニ各地  
ニ種々ノ紛擾ヲ生ジツツアルコトハ、御當  
局ニ於テモ御承知ノコトト思フノデアリマ  
ス、是等ニ對シテ之ヲ放任シテ置カズ、何  
トカ積極的ノ對策ヲ講ジテ欲シイト思フノ  
デアリマスガ、ソレニ對シテドウ云フ御考  
ヲ持ツテ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイノデ  
アリマス、尙ホ更ニ沿岸漁業ノ不況ニ伴ヒ  
マシテ、漁業相互間ニ種々ナル紛議力益、  
重大化シツツアルコトデアリマスガ、今議  
會ニ於キマシテモ、只今登坂君ノ述べラレ

タ如ク、機船底曳ノ漁業ノ整理ニ付キ、贊否ノ陳情ガ澤山ニ參ッテ居ルヤウナ状況デアリマス、今後此種ノ問題ハ一層面倒ニナッテ行クノデハナイカト思フノデアリマスルガ、農林當局ハ一般沿岸漁業保護ノ見地カラ、所謂大局的ニ水產國策ノ上カラ見テ、沿岸漁業ヲ害スル所ノ、先程登坂君ガ熱心ニ述ベラレタ所ノ、有害漁具タル所ノ機船底曳網ノ整理ノ方針ヲ一層強化シテ、根本的ニ沿岸漁業ノ振興ヲ圖ル必要ガアルト思フノデアリマスルガ、如何デアリマスカ

第三ニハ水產試驗場ハ昭和四年ニ創設サレマシタガ、今以テ試驗船スラ持ッテ居ラナイ有様デアリマス、水產試驗場ニ船ノナイト云フコトハ、農事試驗場ニ耕地ノナイト同ジヤウナモノデアリマシテ、斯ノ如キ不完全ナル試驗機關ヲ以テ、我國ノ如キ水產國ノ水產業ノ發展ハ、期シ得ラレナイト信ズルノデアリマス、政府ハ國立水產試驗場ノ擴充ニ關シテ、何等カノ計畫ヲ持ッテ居ルノデアリマスルカ、アリマシタナラバ其計畫ヲ承リタイト思フノデアリマス、尙ホ全國樞要ノ地ニ、水產試驗場ノ分場ヲ配置シテ、サウシテ徹底的ニ統制アル指導ヲ致シテ欲シイ考ヲ、私ハ持ッテ居リマスガ、ソレ等ノ水產指導方針ニ付テ、御抱負ヲ承

タ如ク、機船底曳ノ漁業ノ整理ニ付キ、贊

リタイト存ジマス

以下本法案ニ關聯シテ極ク要旨ノミヲ簡

單ニ伺ヒマスガ、本法案第一條ニ依ル漁船

ノ範圍ニ付テハ、勅令ヲ以テ定ムルコトニナツテ居リマスガ、本會議ニ於ケル本員ノ質

問ニ對シ、成ベク小漁船ニ及ボストノ御答

辯ヲ得テ満足致シテ居リマスガ、併シ其大

ナル方ハ何百噸マデヲ限度トスル御考デア

リマスカ、尙ホ其限度内ノ漁船ノ總數及ビ

保險加入ノ見込數等ヲ、伺ヒタイト思フノ

デアリマス、本法案ノ第五條ニ依ル漁船保

險組合ノ地區ハ、道府縣ノ區域ニ依ラシム

ル方針デアルカ、尙ホ漁業ノ種類ニ依ル保

險組合ヲ認メルト致シマシタナラバ、如何

ナル漁業ニ付テ之ヲ認メルノデアリマスカ、

其邊ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、次ニ

法案第八條ニ依ル所ノ保險ノ料率ハ、保險

組合ノ定款ニ於テ定ムベキモノデアリ、

其制限ニ付テハ命令ヲ以テ規定スルコトニ

ナツテ居リマスルガ、其標準トスル料率ノ外

組合員ヨリ徵收スルコトアルベキ追徴金ハ

幾許デアルカ、其限度ヲ承リタイト思フノ

デアリマス、次ニ保險ノ事故及ビ填補スペ

キ損害ノ範圍ニ付テハ、命令ヲ以テ定ムル

コトニナツテ居リマスルガ、其標準ハドウデ

アルカト云フコトヲ伺ヒタイノデアリマス、

次ニ法案第十八條ニ依レバ、重大ナル過失ニ因ル損害ニ付テハ、保險組合ハ其責任ヲ

負ハヌコトニナツテ居リマスルガ、其重大ナ

ル過失ノ意義ハ、ドウ云フ風ニ考ヘテ宜シ

イノデアリマスカ、實例ニ付テ御説明ヲ願

ヒタイト存ジマス、次ニ法案第三十一條ノ

再保險ノ保險金額ハ、元受保險金額ノ全額

ニ及ブノデアルカ、又ハ其限度如何ヲ伺ヒ

タイト思フノデアリマス、尙ホ其再保險ノ

保險料率ヲ如何ニ定ムル見込デアルカ、ソ

レヲモ併セテ伺ヒマス、更ニ再保險ニ付テ

ハ審査會ヲ設クルコトニナツテ居ルノデア

リマスガ、組織、權限、審査會ノ會員人選

ノ範圍ニ付テ御伺致シタイト存ジマス、次ニ

考究シテ見ルト言ハレタコトハ、私共満足致シテ居リマスルガ、如何ニ其後御考ニナツ

テ居リマスカ、其御抱負ヲ承リタイト存ズ

ルノデアリマス、更ニ水產局ニ本法實施ニ

伴ヒマシテ、保險課ノヤウナモノヲ設置ス

ル考ハナイノデアリマセウカ、以上甚ダ簡

單デアリマスルガ、其點ニ付テ御説明ヲ願

ヒタイト存ジマス

○原政府委員 高木サンノ御尋ニナリマシ

タ海難防止施設ニ關スル點ノ、漁港デアリ

マストカ、船溜デアリマストカ、斯ウ云フ

ヤウナ船ノ安全保險ノ施設ヲ擴充スル、ソ

レカラ漁業者ノ素質改善ノ點、ソレカラ漁

業從業者ノ扶助施設等ハ——御話ノ如ク此

保險ハ事故ガ起ツタ後ノ、マア後始末トモ言

フベキモノデアリマシテ、寧ロサウ云フ事

故ヲ未然ニ防止スル爲ニハ、是等ノ施設ハ

ス、詰リ從來カラモ御承知ノ通リニ、出來

ルダケマアヤツテ參ッテ居リマスケレドモ、

將來一層是等ノ施設ハ、擴充ヲシテ行カナ

ケレバナラヌ、斯様ニ考ヘテ居リマス、ソ

レカラ沿岸漁業ノ振興ニ付テノ御話デゴザ

イマスガ、其點ハ先程登坂サンノ御質問ノ

際ニ申上ゲマシタ通リデゴザイマシテ、ア

ノ際ノ御答デ以テ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒ

マス、ソレカラ水產試驗場ノ充實ナリ、分  
場施設ノ點ニ付キマシテ、ニア水產試驗場ニモ御說  
デゴザイマシテ、マダ試驗船ガ一艘モナイト云フ  
コトハ、吾々ト致シマシテモ非常ニ不満足  
ニ感ジテ居ル次第デアリマス、此點ハモウ  
財政上ノ事情ノ許ス限り、一日モ速ク實現  
ヲ圖ツテ參ラナケレバナラヌ、斯様ニ考ヘ  
テ居リマシテ、將來出來ルダケ努力ヲ致シ  
タイト考ヘテ居リマス、分場ノ設置ニ付キ  
マシテモ、從來東北ハ東北デ、東北ニ分場  
ヲ設ケテ貰ヒタイト云フ御話モアリ、九州  
ハ九州デ、アノ方面ニ分場ガ必要ダト云フ  
ヤウナ御意見モ、度々御話ニナツテ居リマ  
シテ、事情ノ許ス限リハ其設置ヲ圖ツテ參  
リタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

ソレカラ直接此保險法案ニ付テノ御尋デ  
ゴザイマシタガ、此保險ノ目的ハ、大體原  
則ヲ百噸未満ト云フコトニ置キマシテ、出  
來ルダケ、所謂百噸未満ノ小サナモノヲ本  
體ニシテ參リタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、  
唯例外的ニ多少其百噸以上デモ、事情ニ依ッ  
テハ扱ハナケレバナラナイモノモアラウ  
カト考ヘテ居リマスガ、其場合ト雖モ千  
噸以上ノ大キナ船ハ、數万非常ニ少ナウゴ  
ザイマスシ、又民間ノ海上保險等デモ、大

キナ漁船ハ多少從來モ扱ツテ居リマシテ、千噸以上ノモノハ大體民間ノ保険ニ委セルト云フコトニシテ參リタイト思ヒマス、ソレカラ漁船保険組合ノ區域ノ點デアリマスガ、是ハ府縣ノ區域ニ依ルトカ、或ハ郡ノ區域ニ依ルトカ云フ風ナ劃一的ナコトハ廢メマシテ、地方ノ事情々々ニ應ジマシテ、漁船ノ大體集ツテ居ル所ヲ中心ニシマシテ、適當ニ定メテ參ルヤウニ致シタイト思ヒマス、又業種別ノ組合ト云フモノモ出來ルヤウニ考ヘテ居リマスガ、是ハドウ云フ業種ニ付テ實行サレルカ、ハツキリシタ見當モノナドハ、若シ最前申上ゲマシタ一千噸未満ノ船デ、組合ヲ造リタイト云フ風ナ場合ニハ、認メテ參ツタラ如何カト、斯様ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ保険料率デアリマスガ、是ハ組合々々ニ依リマシテ、具體的ニハ各々違ツテ參ルコトハ勿論デゴザイマスガ、全國ノ平均ノ料率ヲ申上ゲマスト、動力附漁船ト無動力漁船トニ分ケテ申上ゲマスト、動力附漁船ノ方ハ、保険金額百圓ニ對シマシテ二圓三十九錢、其内譯ヲ申上保険料ガ七十六錢ト云フ風ニ考ヘテ居リマス

ス、無動力漁船ハ保険金額百圓ニ對シマシ  
テ一圓七十一錢、其中デ純保険料ガ一圓一  
錢、附加保険料ガ七十錢ト云フ風ニ考ヘテ  
居リマス、ソレカラ此保険料ノ追徵金ノ限  
度デゴザイマスガ、是ハ此限度ノ追徵金ヲ  
決メル際ノ個々ノ契約ニ付キマシテ、保険  
ヲ掛ケテカラ經過シマシタ詰リ經過期間  
ト、ソレカラ支拂保険料トノ關係、即チ其  
年ノ既納ノ保険料ト云フモノヲ標準ニ致シ  
マシテ、ソレヲ最高限度ニシテ考ヘテ居リ  
マス、即チモウ一遍言ヒ換ヘマスルト、既ニ  
拂ツタ保険料ノ倍以上ハ追徵ハシナイ、サウ  
云フ風ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ填補責  
任ハドウ云フ場合ニ生ズルカト云フ點デゴ  
ザイマスガ、是ハ沈没デアリマストカ、坐礁  
其他漁船ニ付テ損害ガ生ジタ場合全部ヲ考  
ヘルノデアリマシテ、次イデ船ノ行方不明  
ト云フヤウナ場合ニモ、勿論責任ガ發生ヲ  
スルヤウニ考ヘテ居リマス、商法ノ規定ニ  
依リマスト、公海ニ關スル危險トカ云フ風  
ニナツテ居リマシテ、例ヘバ極ク小サナ船デ  
アリマスト、能ク砂濱ヘ引揚ゲテアリマス  
ガ、アア云フ砂濱ヘ引揚ゲテアル間ニ、損  
害ガ起ツタナラバドウスルカト云フヤウナ  
點ガ、從來公海ニ關スル危險デハ填補ガ出  
來ナイ缺點モアリ、又漁船ニ依リマシテハ

河川ヲ航行スルモノノモアリマシテ、ソレ等ノ事項ハ公海ニ關スル事項ト云フヤウナ觀念デハ、一寸是ハ填補ガ出來ナイノデアリマス、ソレ等ノ場合ヲモ全部含メルヤウニ損傷ナリ、滅失ナリ、沈没、行方不明其他漁船ニ付テ損害ヲ生ジタ場合ハ、斯ウ云フ風ニ廣ク是ハヤツテ行キタイト云フ風ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ再保險金ノ限度デゴザイマスガ、是ハ元受保險金額ハ七割ヲ限度ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ再保險料率ノ點デゴザイマスガ、是ハ動力附、無動力附ニ分ケテ申上ゲマスト、動力附ノ漁船ハ再保險金額百圓ニ對シマシテ一圓八十  
四錢、其中デ純再保險料ガ一圓六十三錢、附加再保險料ガ二十一錢、無動力漁船ハ再保險金額百圓ニ對シマシテ一圓十四錢、其  
中デ純再保險料ガ一圓一錢、附加再保險料ガ十三錢、サウ云フ風ニ見テ居リマス、ソレカラ審査會デアリマスガ、此審査會ハ家畜保険ノ制度ニモアリマシテ、此再保險關係ニ付テ民事訴訟ヲ提起スル場合ニハ、成ベク之ヲ出來ルナラバ簡易ニ、訴訟マデ持ッテ行カナイデ解決スルヤウニ圖リタイ、斯様ナ關係カラ致シマシテ、保險審査會ノ議ニアリマス、ソレデ其構成ハサウ云フ趣旨デア

リマスカラ、漁船ノコトニ付テ経験ノアル  
人ハ勿論デアリマスガ、例ヘバ其他ニ司法  
省ノ民事局長デアリマストカ、サウ云フ訴訟ニ關  
シ、又漁船ニ關シ、保険ト云フコトニ付テ通  
曉ヲシテ居ル人、ソレ等ノ人ヲシテ構成ス  
ルヤウニ考ヘテ居リマス、ソレカラ此漁船  
保険ノ實行ノ爲ニ、水產會ニ補助ヲスル考  
ハナイカト云フ御尋デアリマスガ、水產會  
等ニ對シマシテハ、勿論色々其御世話ヲシ  
テ戴ク必要ガアル、斯様ニ考ヘテ居ルノデ  
アリマスガ、只今ノ所デハ直接ニ水產會ヘ  
補助ト云フ形デ、水產會ノ御援助ニ對スル補  
助ノ關係ハ考ヘテ居リマセヌ、但シ色々保  
險思想ノ宣傳普及トカ、又漁船保険組合ノ  
仕事實行ノ全般ニ付テ、水產會ノ所謂指導  
ト云フヤウナコトモ、ヤツテ戴カナケレバナ  
リマセヌノデ、サウ云フ宣傳指導ノ仕事ヲ、  
水產會ニ委託ヲスルト云フ風ニ大體考ヘテ  
居リマシテ、委託ト致シマシテ年ニ金額ヲ  
申セバ六千圓程度ノモノハ、大體水產會ノ  
方ヘ御廻シヲシテ御願ヲシタイ、斯様ニ考  
ヘテ居リマス、ソレカラ國庫補助ノ點デゴ  
ザイマスガ、是ハ漁船保険組合ノ設立ノ費  
用、ソレカラ組合ガ出來テカラノ漁船保險  
組合ノ事業費、ソレカラ直接ニハ漁船保險

組合ニ對スル補助デハゴザイマセヌガ、只今此水産業ニ於テ申上ゲマシタガ、保険宣傳指導ノ委託費、ソレカラ府縣ニ指導ノ職員ヲ置カネバナラヌカラ、ソレモ考ヘテアリマスガ、ソレモ間接ニハ國庫ノ補助ト云フ風ニ、實質的ニ見テ宜イカト思ヒマス、サウ云フ費用モ見テ居リマス、ソレカラ是ハ保険事業其モノハ、保険關係ハ特別會計ヲ設ケテヤルノデアリマスガ、最初カラ特別會計ガ獨立スルヤウニ考ヘマスト云フト、保険料ト云フモノヲ結局高ク取ラナケレバナリマセヌカラ、漁民ノ負擔モ考ヘマシテ、十年位ハ一般會計ノ方カラ特別會計ノ方へ、所謂繰入金ヲヤリマシテ、十年後ニハ特別會計デ繰入レナクテモ、獨立シテ行ケルヤウニ組立テタ譯デアリマシテ、一般會計カラノ繰入金ハ、是ハ勿論形式ハ補助金デハアリマセヌガ、若シ此繰入ト云フモノガナケレバ、保険料ト云フモノヲウント高ク取ラナケレバナラヌト云フコトニナル點カラ考ヘマスト云フト、一種ノ是ハ保険料ノ國庫負擔ト云フ風ニ實質的ニ相成リマス、ソレ等ノ點モ廣イ意味ノ補助ト申上ゲレバ、申上ゲテ宜イカト思ヒマスガ、其程度ノモノハ考ヘテ居リマス、ソレカラ此水產行政ノ、行政機構ト申シマスカ、水產省

ヲ考へて居ナイカト云フ御話デ。ゴザイマス  
ガ、是ハ本會議デ農林大臣ノ御答辯モアリ  
マシタヤウニ、水產行政ノ行政機構ハ、色  
色考へテ行カナケレバナラヌト思ヒマス  
ガ、只今水產省ト云フ風ナモノヲ具體的ニ  
考へテ居ルト云フ程度ニハ參ッテ居リマセ  
ヌ、ソレカラ此保險實行ノ場合ニ、保險課  
ヲ置ク考ハナイカドウカト云フ御話ハ、保  
險課ト單ニサウ云フカドウカ分リマセヌ  
ガ、是ガ爲ニ兎ニ角一ツノ課ヲ設ケナケレ  
バナルマイ、斯様ニ考へテ居リマス

昭和十二年三月十五日印刷

昭和十二年三月十六日發行

衆議院事務局

印刷者 常磐印刷株式會社